

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272100583		
法人名	医療法人財団百葉の会		
事業所名	グループホーム百葉二の宮		
所在地	静岡県富士宮市北町14-5		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町村受理日	平成23年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成22年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人挙げて取り組んでいる理念『自らが受けたいと思う医療と福祉の創造』を職員全ての目標とし、サービスの質の向上に取り組んでいる。
お客様の生きる力を引き出せるよう、外出行事や季節の行事を多く取り入れ、また、多くの慰問団体の方々を訪れてくださるなど、楽しい時間が持てるようにしている。
また、併設のデイサービスと連携し、看護師をはじめ全ての職員で温かく見守り、安心して穏やかにその人らしく暮らしていけるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは幹線道路から少し離れた住宅街に位置し、デイサービスセンターと一体的に運営されているため活気に溢れている。また職員一同が明るく笑顔を絶やさないことで、利用者もまた生き生きと生活している。法人の運営体制や研修制度も的確で、職員は管理者を中心にして常に前向きに利用者の支援に努めており、利用者の明るい笑顔と、元気な職員の姿が印象的なホームであった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	母体である湖山医療福祉グループの理念を周知徹底し、職員行動指針・こやまケア行動指針を策定、それに則った形で百葉二の宮の理念を作成・実践につなげている。	法人の理念や、グループの理念である「こやまケア」を軸としてホームの理念を構築しており、職員全員が的確に理念を共有している。また理念の実践に向け、職員会議等において日々確認されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所主催の祭り他行事にご招待したり、地域の行事に積極的に参加している。また町内会に入会させていただき、散歩時や買い物の際に声を掛けていただいている。	町内会に加入し地域との交流に努めている。ホームのイベントには近隣住民が参加し、利用者も地域の行事や祭事に積極的に参加している。また多様なボランティアの訪問もあり、地域との日常的な交流が確認出来た。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政や支援センターとの連携で、地域住民に向けた認知症啓蒙活動に参加させていただいており、多くの方と交流を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の現状や、お客様の様子、季節の行事や慰問などをお伝えし、またご意見や苦情をいただけるよう配慮しながら、サービスの向上に繋がるよう努力している。	運営推進会議は隔月に開催されており記録も的確である。会議の内容は申し送り等にて迅速に職員に伝えられており、職員全員が共有することで日々のサービスに活かされるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域密着型の施設として行政との連携を図っていききたい。相談等は随時しており、ご指摘や助言をいただいている。	市直営の地域包括支援センターと頻りに意見交換することで、行政との協力関係が構築されている。また管理者は市役所に近い利点を生かし、積極的に担当者と交流しており、日常的な連携を保っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修に参加し勉強したり、ケア会議等で、身体拘束のない介護の徹底に努めている。施錠や、身体的な拘束のみならず、スピーチロックのない介護を目指している。	「身体拘束0宣言」を実施しており、法人の研修やホームでのカンファレンスを通じて十分に意識を高めている。夜間以外は玄関にも施錠せず、外部と隔たりのない自由な環境となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修や職員会議等で学び、法人としての理念のもと、虐待を絶対にしない、見過ごさない努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者含め一部の職員は勉強会への参加等で理解をしているが、全ての職員への周知はできていないと考える。 また必要性があれば支援できるよう努力していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書・重要事項説明書の内容については十分に説明し、ご理解いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情やご意見は随時受け入れる姿勢を示している。運営推進会議にはご家族様の代表に必ず参加頂き、いただいた意見は職員に周知し、運営に反映できるよう心がけている。	家族や関係者の意見や希望は面会時に傾聴している。また日常生活に利用者の要望が反映するよう、良好なコミュニケーションに努めている。意見や希望は申し送り等にて全職員が共有し、サービスに活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議において事業所のみならず法人の経営状況や運営方針を報告し、それに対しての意見を聞く機会を設けている。また日々の申し送り時にも意見や提案を聞き、運営に反映させている。	管理者やケアマネージャーが職員の相談役となっており、現場にて職員が意見を表明しやすいよう配慮している。また管理者による個人面談も適宜実施しており、職員の意見が業務に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の目標の設定や、法人内の移動希望調査など実施し、随時面談を行い、職員がやりがいを持って夢の実現が出来る環境となるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質向上を目指し、法人内で行われる各種研修・意見交換会など積極的に参加している。未経験に関しては、毎日の業務の中で知識や技術が修得できるようフォローしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のGH連絡会に参加し、合同運動会・新年会・実践発表会・事例検討会などに参加し、他事業所との交流を図り、地域全体でのサービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの要望を取り入れるよう努めているが、聞き取りが困難で家族からの情報や訴えが優先されるケースも多い。初期段階での本人のつぶやき等に耳を傾けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学に来て頂いたり、相談の場を多く持つよう努力している。また担当ケアマネージャーやそれまで関わりのあった介護施設の職員などからも聞きとりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居のご相談を受けた際、今のご本人様の状況を把握し、出来る限りの支援を行っている。GH入居がその方にとって最善の方法であるかを見極め助言している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様は共に生活を支える仲間であるという意識を持って頂けるよう、生活全般において知恵を頂きながら、食事作りや季節の行事の準備を一緒にするよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	GH入居後も家族との関係を密にしていけるよう随時電話で様子を報告させていただいている。また混乱が見られる時など、家族の協力をいただいている。またお便りの配布にて施設の行事への参加を促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	無理のない範囲で外出・外泊にて一緒に過ごせる時間を持てるようお願いしている。また、面会は時間を制限せずいつでも来ていただける雰囲気作りで配慮している	面会制限をせず、利用者の友人や関係者が自由に訪問できるよう配慮している。また職員との個人外出も実施しており、思い出の場所や馴染みの人との交流を図るため、家族にも外出や外泊の支援を要請している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう配慮し、時間が許す限り一人ひとりの対応に努めている。皆様が仲良くレクリエーションなどを通してお互いの名前を確認し合ったり認め合ったり出来るように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケースにもよるが、しばらくは「お便り」を発行したり行事をお知らせすよう配慮している。また相談には随時対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様主体のケアが出来るよう希望や意向については常に耳を傾けている。困難な場合はご家族様から情報を得て全職員で検討している。	ホーム独自のアセスメント票と利用開始時の面接記録等を組み合わせて活用し、利用者を含めて全人的に把握するよう努めている。また職員は日常のコミュニケーションを大切にしており、利用者の思いや意向を傾聴している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式にてアセスメントを作成し、ご本人の口から出た名前や場所を聞き漏らさず、ご家族にも尋ね、どんな事を懐かしみ出した言葉なのかを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングを繰り返すことにより、現状を把握しサービスに反映させている。異変を言葉に出来ない場合も多い為、表情や動きで判断出来るよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向・家族の思いを聞き出せるような関係性の構築に努め、介護計画に反映させている。また担当職員の思いなども参考にしている。介護計画の見直し、モニタリングも定期的に行っている。	介護計画は定期および随時に更新されており、家族にも的確に説明している。ケース会議では、職員の意見や利用者の要望が反映するよう検討されており、常に現状に即した計画となるよう配慮されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤者が昼間帯、夜勤者が夜間帯の様子・気づき・行動等を細かく記録し、情報の共有をすると共に、朝・夕の申し送り時に報告し、日々の介護に活かせるよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人の持つ多機能性を活かし、お客様やご家族様の要望に応じた柔軟な支援に努めている。また、併設のデイサービスとの連携により、慰問や行事など多彩な経験をしていただけよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや実習生の受入れなどによって、施設外の方と交流を持てるようにしたり、近隣の店や美容室と顔なじみになり気軽に話しかけて頂けるよう配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、ご家族様の承諾を得、法人内の病院との連携により、月に一度、訪問診療を受けている。状況に応じては元々診て頂いていた近隣の病院に相談するなど柔軟に対応している。	本人や家族の希望によりホームの協力病院に主治医を変更している利用者もいる。協力病院からは月1回の往診があり、看護師も週1回訪問している。また体調不良時には迅速に受診が出来る支援体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に状況の変化に留意し、必要に応じ併設のデイサービスの看護師に報告・相談をしている。また、週に一度訪問看護師の訪診があり、全利用者様の状況把握とアドバイスなどを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は全職員が頻繁に見舞い、担当医や担当看護師から情報提供を受け、退院後スムーズに生活に戻れるよう支援している。特に認知症の悪化が懸念される場合には、早期退院と受入れの可能性を探り出来る限りダメージを少なくするよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応は、職員一人ひとりの知識や判断力などが必須となってくる。主治医の意見を伺ったり、ご家族様の意向を具体的に聞き、チームとして連携して誠意ある対応を心掛けている。	重度化に向けた家族の確認書は受け取っている。またホームでターミナルケアを実施した経験もあり、職員はターミナルケアの受け入れに対して前向きであるが、研修やマニュアル等の作成には至っていない。	職員がターミナルケアに対し前向きな姿勢を持っていることから、今後は看取り介護に向けた職員の業務マニュアルの作成や、実践的な研修を重ねていくことが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設デイサービスの看護師を中心に救急対応の研修を随時行っている。またマニュアルを作成し、随時確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方が出席する運営推進会議などで協力を呼びかける機会を作っている。また防災訓練では避難訓練や消火訓練を行い、その際、近隣の方にも参加を呼びかけている。夜間の災害に関しては準備が不十分と	法定の災害訓練は的確に開催されているが、夜間を想定した避難訓練は未実施である。また運営推進会議にて災害の話題には触れているが、協力関係の構築には至っていない。災害時の水や食料の備蓄も少ない。	運営推進会議等を積極的に利用し近隣住民からの支援を受けることで、夜間の災害に対し備える事が望まれる。また生活水、飲料水、食料等は常時備蓄される事が望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格尊重とプライバシーへの配慮については、日々努力を続けている。	法人の研修体制が整備されており、職員は利用者の尊厳に配慮しながら各々に合った対応や声掛けを工夫している。利用者のファイル等個人情報についての書類は、施錠できる事務所内に保管されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思が表出し易いようお客様との関係性を構築し、自己決定できるよう、漠然とではなく、選択し易いような言葉掛けに配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れ自体は概ね決まっているが、本人の身体の状態・精神面を考慮し、一人の時間も重要と考え、一人ひとりのペースを大切に出来るように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容院は、本人の希望に沿って近くの行きたい所を選び、職員付き添いにて行っている。髪型や化粧・新しい服を購入するなど本人の希望に叶うよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時にお好みを伺うよう声かけさせて頂き、食事の準備や片付けは随時お手伝い頂いている。また、誕生日会や行事食・外食時などは、特にご本人の希望をお聞きしている。	懐かしい音楽をBGMにして職員と共に食卓を囲み、食事を楽しむ雰囲気を大切にしている。嗜好調査も的確に実施され、季節の外食もある。利用者は楽しみながら食事の準備や片付けを手伝っていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの歯の状態、嚥下の能力を考慮しバランスの良い食事の提供を心掛けている。水分量のチェックは必ず行い、一日を通して必要量を摂取していただけるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、職員介助または見守りにて行っている。週に一度、歯科衛生士の訪問、月に一度の歯科医師の受診を受け口腔状態の維持向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、随時誘導することで、日中はパットの使用はあるもののオムツの使用はない。夜間も声掛けにより失敗を減らせるよう支援し、自立にむけた支援に努めている。	排泄チェック表により各々の排泄パターンを職員間で共有し、その人に合った誘導で排泄を支援しているため、日中は全ての利用者がおむつを使用していない。また自家製ヨーグルト摂取での自然排便に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や、繊維質の多い食品の摂取を心掛けている。また、毎日の体操や散歩、毎食後のカスピ海ヨーグルトの提供など試みている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は午後が入浴時間になっている。本人の希望にあわせて入浴して頂いている。1Fデイに遊びに行かれ、そこで入浴されてくる方もいるなど、柔軟に対応している。希望があれば就寝前の入浴も検討したい。	毎日入浴する事が当たり前と考え、個々の希望に添った入浴を提供している。また柚子湯や菖蒲湯等にて利用者を楽しませている。入浴を好まない利用者もいるが、職員の巧みな誘導で隔日の入浴が出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の生活パターンに合わせ支援している。現在日中は殆どの方が居間に集まり、活動的に過ごされているため、20時頃に休まれる方が多い。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬についての説明書きを職員で確認している。服薬時は必ず職員が見守り確実に飲んでいただくように支援し、症状の変化が観察された場合は看護師等に報告相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人得意分野があるので、その方の得意な事をやっていただけるように配慮している。また趣味や特技を活かしながら製作活動や将棋、カラオケ等を楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や外食・ドライブ・祭り見物など、なるべく対応している。ご利用者と担当職員が個別で外出し、ご家族と共に、ご希望に沿った場所で過ごせる時間も設けるよう努めている。	利用者の体調に配慮しながら毎日の散歩を心掛けている。また花見やドライブ、近隣の祭事への参加等、多様な外出の機会を提供している。個別対応による外出の企画では家族にも声を掛け、共に過ごせるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、現金を所持している方は1名。管理までは出来ていない。他の方は施設で預かる形をとりながら、食べたいものや欲しいものを一緒に買いに行き、自分で支払いするなどの支援、機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様への電話は要望があれば随時対応している。また、年賀状や暑中見舞いなど職員が協力しながら作成している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂には、イス、テーブル、ベンチやソファー、こたつ等が配置され自由にご利用頂いている。壁面には外出時の写真や季節感のある飾り、テーブルには季節の花を飾るなど居心地の良い生活空間に努めている。	共用空間は明るく親しみやすい雰囲気、居間には大きなソファー、畳のスペースにはコタツが置かれており、利用者が自由に過ごす事が出来るよう配慮されている。壁には外出時の写真が掲示され、利用者が自然に集う空間となっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、ベンチやソファー、こたつ等が設置されている。お一人で、または気の合う仲間思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご家族に使い慣れた家具等の持ち込みをお願いするが、なかなか実現できていない。一緒に生活する中で、その方にとって居心地良い環境とは何かをお客様と一緒に探りながら工夫している。	居室には十分な収納があり、危険なく整理できるよう配慮されている。利用者は馴染みの家具や仏壇、日用品等を持ち込み、家族の写真や趣味の作品等に囲まれており、その人らしく居心地よく過ごす姿が確認出来た。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を心掛けてはいるが、一人ひとりのできること、わかることの力を最大限に活かした支援とはなっていない。		